

【ホテル又は旅館】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	エム・シー福山ビル	福山市東桜町5	ホテル	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.43 q=0.96	建替え	1期解体工事(部分解体) 2019年(令和元年)10月完了済 新築工事 2019年(令和元年)10月着工 2021年(令和3年)1月完成予定 2期解体工事 2021年(令和3年)4月着工予定 2022年(令和4年)3月完了予定	塔屋① 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=0.51, q=1.70 PH1階 Is=0.43, q=0.96 Y方向 PH2階 Is=0.43, q=1.45 PH1階 Is=0.71, q=1.57
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.25 q=0.58			塔屋② 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=0.25, q=0.85 PH1階 Is=0.26, q=0.58 Y方向 PH2階 Is=0.47, q=1.59 PH1階 Is=0.33, q=0.74
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.34 q=0.52			1~7階部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 7階 Is=0.76, q=1.17 6階 Is=0.42, q=0.65 5階 Is=0.34, q=0.52 4階 Is=0.40, q=0.62 3階 Is=0.40, q=0.62 2階 Is=0.48, q=0.75 1階 Is=0.69, q=1.15 Y方向 7階 Is=0.91, q=1.38 6階 Is=0.47, q=0.70 5階 Is=0.38, q=0.56 4階 Is=0.36, q=0.54 3階 Is=0.34, q=0.52 2階 Is=0.36, q=0.53 1階 Is=0.40, q=0.69
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	Is=0.66 Is/Iso=1.10 CTU・SD=0.51			地階部分 Iso=0.60(所有者の指定による) Rt=0.973 耐震診断の結果(詳細) X方向 B1階 Is=0.86, CTU・SD=0.65 B2階 Is=0.66, CTU・SD=0.51 Y方向 B1階 Is=1.06, CTU・SD=0.80 B2階 Is=1.03, CTU・SD=0.78

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
2	ツネインしまなみビレッジ センターハウス	福山市沼隈町大字中山南26-1	ホテル					
	北棟			別表2(7) 「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	Is=0.28 q=0.84	耐震改修	2017年(平成29年)8月31日 補強設計完了 2019年(平成31年)3月20日 耐震改修工事完了	2階部分 耐震診断の結果(詳細) X方向 2階 Is=0.34, q=0.95 Y方向 2階 Is=0.28, q=0.84
	中央棟			別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.71 Is/Iso=1.18 CTU・SD=0.80	同上	同上	1階部分 Iso=0.60(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 1階 Is=0.71, CTU・SD=0.99 Y方向 1階 Is=0.86, CTU・SD=0.80
	南棟			別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.25 Is/Iso=0.41 CTU・SD=0.26	同上	2017年(平成29年)8月31日 補強設計完了 2018年(平成30年)3月31日 耐震改修工事完了	Iso=0.60(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 4階 Is=1.35, CTU・SD=1.29 3階 Is=0.93, CTU・SD=0.90 2階 Is=0.77, CTU・SD=0.75 1階 Is=0.25, CTU・SD=0.26 Y方向 4階 Is=0.86, CTU・SD=0.54 3階 Is=0.62, CTU・SD=0.40 2階 Is=0.62, CTU・SD=0.40 1階 Is=0.36, CTU・SD=0.36
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.27 Is/Iso=0.45 CTU・SD=0.27	同上	同上	Iso=0.60(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 4階 Is=0.76, CTU・SD=0.49 3階 Is=0.56, CTU・SD=0.36 2階 Is=0.53, CTU・SD=0.40 1階 Is=0.27, CTU・SD=0.27 Y方向 4階 Is=0.92, CTU・SD=0.89 3階 Is=0.64, CTU・SD=0.62 2階 Is=0.57, CTU・SD=0.55 1階 Is=0.55, CTU・SD=0.54

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
3	<p>納シーサイドホテル</p> <p>【2020年(令和2年)6月11日更新】</p>	福山市鞆町鞆字関町550番地10, 555番地1, 555番地, 555番地2	ホテル	別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=0.92 Is/Iso=1.15	耐震改修	2022年(令和4年)度耐震設計着手	PH部分 Iso=0.80(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 PH2階 Is=1.00 PH1階 Is=1.14 Y方向 PH2階 Is=0.95 PH1階 Is=0.92
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.23 Is/Iso=0.38 CTU・SD=0.28			6~9階部分 Iso=0.60(所有者の指定による) 耐震診断の結果(詳細) X方向 9階 Is=0.56, CTU・SD=0.54 8階 Is=0.26, CTU・SD=0.32 7階 Is=0.25, CTU・SD=0.30 6階 Is=0.23, CTU・SD=0.28 Y方向 9階 Is=0.82, CTU・SD=0.78 8階 Is=0.32, CTU・SD=0.39 7階 Is=0.30, CTU・SD=0.36 6階 Is=0.28, CTU・SD=0.35
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	Is=0.54 Is/Iso=0.90 CTU・SD=0.41			4~5階部分 Iso=0.60(所有者の指定による) Rt=1.0 耐震診断の結果(詳細) X方向 5階 Is=0.60, CTU・SD=0.45 4階 Is=0.56, CTU・SD=0.43 Y方向 5階 Is=0.60, CTU・SD=0.45 4階 Is=0.54, CTU・SD=0.41
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	Is=0.34 Is/Iso=0.56 CTU・SD=0.29			1~3階部分 Iso=0.60(所有者の指定による) Rt=1.0 耐震診断の結果(詳細) X方向 3階 Is=0.34, CTU・SD=0.33 2階 Is=0.40, CTU・SD=0.47 1階 Is=0.86, CTU・SD=0.65 Y方向 3階 Is=0.38, CTU・SD=0.29 2階 Is=0.45, CTU・SD=0.34 1階 Is=0.60, CTU・SD=0.45

附表 耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	II (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	III (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)	
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$	
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
(7)	「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.7 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずる恐れは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びI_{so}を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。

※※特記無き限り、地域係数Z=0.9、補正係数G=1.0、U=1.0として耐震診断されています。